

# 幼児期の運動遊びにおける環境構成の重要性及びその在り方

## ～金大附属幼稚園での環境構成を例に～

学校教育教員養成課程

岩崎 裕香

### I 研究の動機

幼稚園における幼児の生活の中心は「遊び」であり、幼児は遊びを通して運動技能の獲得や、友人関係の構築、社会性の習得など、様々な面から心身を発達させることが出来る。このため、保育者は遊びを充実・発展させるために適切な環境構成を行うことが求められる。実際、筆者は幼稚園でのボランティア活動を通して、保育者の環境構成の重要性を強く感じ、また、大学では保健体育を専攻し、運動について色々学んだことから、幼児の「運動遊び」にとって効果的な環境構成について詳しく知りたいと思うようになった。

しかし現在、幼児の運動遊びに効果的な保育者の環境構成について具体的に明らかにした研究はほとんど見られない。そこで、金大附属幼稚園での事例調査を通し、運動遊びの充実・発展に効果的な環境構成について検討してみたいと思ったことが、本研究に取り組む動機である。

### II 研究の目的

- ① 幼児期における運動遊びの種類及び幼児の心身に与える効果、保育者の環境構成の種類について整理すること。
- ② 金大附属幼稚園での環境構成の実態を明らかにすること。
- ③ ①、②を基に、保育者の環境構成の重要性やその在り方について再検討すること。

### III 研究の方法

本研究では、運動遊びの定義や幼児の心身に与える効果、環境構成の種類や構成方法、金大附属幼稚園での事例調査、以上の3点を研究材料とした。

主な参考資料として、幼児の運動遊びは小林寛道の『幼児の発達運動学』、保育者の環境構成は文部省発行の『幼稚園教育要領』やフレーベル館発行の『幼稚園教育要領解説』を用いてまとめた。また事例調査は特に5歳児担当の中田先生に協力を依頼し、環境構成の実態についてまとめた。

IV - i 運動遊びの定義及び幼児に与える効果

本研究では、「運動遊び」の定義を「心身の運動を伴う自発的な（周囲からの誘いを受けて遊び始め、その後遊びに夢中になっている場合を含む）遊び」とした。また、「運動遊び」が幼児の心身に与える効果として、1. 身体を動かす魅力を知る、2. 運動技能の獲得や向上、3. 身体を大切にする姿勢や安全への構えの習得、4. 達成感や有能感、充実感の獲得、5. ルールや順番を守るといった社会性や他者への思いやりなどの内面的な能力の習得、の5つを挙げることが出来る。

IV - ii 保育者の環境構成の種類及び構成方法

保育者の環境構成は、1. 物的環境構成、2. 空間的環境構成、3. 人的環境構成、の3つに大別出来る。以下に1～3の内容及び運動遊びの充実・発展に効果的な構成方法について述べる。

（1）物的環境構成

幼児の遊びに関与する物（園具や遊具など）を構成することである。保育者は幼児の発達や興味を把握し、遊びに合わせて物の種類や大きさ、数や素材、配色、形、配置、などを考慮し、環境構成を行うことが求められる。

（2）空間的環境構成

遊びの形態に合わせて、遊びを行う場所を決めたり、空間に変化をもたらすことである。保育者は、幼児の遊びに対するイメージを常に持ち、どのような空間的環境が遊びに適しているのか考え、物的環境と関連させながら構成しなければならない。また、幼児にとって安全な空間を確保することが、空間的環境構成で1番大切なことである。

（3）人的環境構成

保育者が幼児への言葉かけや行動によって、遊びの援助を行うことである。幼児にとって保育者の言動全てが人的環境になるため、保育者は常日頃から自分の立ち振る舞いや言葉かけに気を配り、自己分析や改善を行っていくことが大切である。

IV - iii 金大附属幼稚園での事例調査

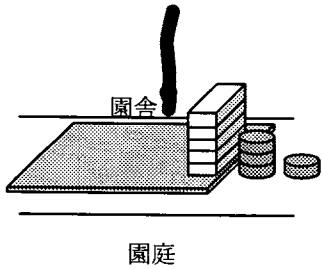
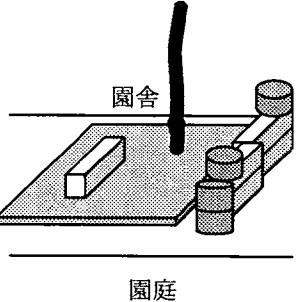
事例調査では、テラス上から吊り下げられたロープを用いて展開された遊び（事例1）とアスレチック場で展開された遊び（事例2）を事例として取り上げた。以下の表1は事例1の観察記録、表2は物的環境構成の考察の一部である。

表1 事例1 ロープとブロックを組み合わせて展開された遊び

幼児	運動遊びの流れ	保育者の環境構成
	徐々に積み上げたブロックが崩れる。	

A,C 君	I先生がブロックを並べる様子を見ながら、真似してブロックを並べる。	「よし、今度は誰が乗っても壊れないのを作ろっか」と言って、ブロックを並べ始める。
A 君	しばらく考え、ブロックを持って来て、ブロックの高さをそろえる。	「あれー、ここぐらぐらしてるよ」
B 君	「うん!」と言い、ブロックに登り、ロープにぶら下がり、ブロックの上からジャンプする。	きれいに積み上げられたブロックを指差し、「ここからジャンプするの?」と、幼児達に聞く。
A 君	ブロックをもう一つ持って来て、高さのそろったブロックの上に置く。 ブロックの高さがばらばらになる。	
B,C 君	不安定なブロックに不満顔をする。  「難しいよー」  列になりチャレンジし始める。  ・・・しばらくこの遊びが続く。	積み上げられたブロックを指差し、「あっ、分かった!ここから出発して、ブロックを倒さないように着陸したらどう?」と言う。  「難しいかー、けど誰かチャレンジしてみない?」  「頑張れ、頑張れ、おー出来た、出来た!」

表2 事例1の中でブロックを用いて行われた物的環境構成

環境構成図	構成状況	環境構成図	構成状況
<p>&lt;遊びの展開前&gt;</p> 	<p>&lt;四角形&gt; 幼児がロープ下に積み上げた。  &lt;円形&gt; 保育者が、階段状に配置。</p>	<p>&lt;遊びの展開後&gt;</p> 	<p>&lt;四角形&gt;保育者と幼児が、マットの縁に沿って配置。また、幼児が、マット上に配置。  &lt;円形&gt;保育者と幼児が、四角形のブロック上とマットの縁に沿って配置。</p>

事例1で何度も観察された保育者が幼児と共に行う物的環境構成は、ブロックをどのように配置したらどんな遊びが出来るのか幼児に直接伝えたり、ブロックを用いた遊びのイメージを膨らませることが出来、幼児の遊びの幅を広げることにつながると考えられる。

また、ブロックの配置方法を変えることで、新しい遊びへと発展し、遊びの中で行う幼児の基本的動作にも様々な種類の動作を生み出せることが明らかとなった。

さらに、ブロックの形が違うと、幼児は全く違った使い方や遊び方をする姿が観察された。このことより、保育者は幼児が自由に想像したり創造出来る環境を整え、遊びを充実・発展させるために、一種類の物的環境構成であっても、様々な色や形を遊びが展開される前に構成しておくことが大切だと考えられる。

## V 結論

本研究では、保育者は幼児の自発的なあそびを大切にしながら、遊びの状況に合わせて3つの環境構成（「物的環境構成」「空間的環境構成」「人的環境構成」）を組み合わせていることが必要であることが明らかとなった。保育者は日頃から、幼児の遊びを観察したり、幼児の個性、興味・関心のある物事を把握しておくことが、遊びの充実・発展に効果的な環境構成を行うために必要である。また、保育者は様々な遊びをイメージし、それに必要な場や材料を整え、適切に配置して、幼児が自らその環境に誘われて自発的に活動するように、創意と工夫を働かせ、環境構成を行うことによって、幼児は自発的に生き生きと遊ぶことが出来ると考えられる。

以上、幼児期の運動遊びにとって保育者の環境構成はきわめて重要な役割を果たすと言える。

## VI 今後の課題

今後、幼稚園での環境構成の事例をさらに数多く取り上げ、運動遊びや環境構成の分析及び考察を行うことで、保育者の環境構成に対する知識や理解が深まると考えられる。また、事例調査を通して明らかとなった環境構成の在り方を踏まえ、筆者自身で運動遊びに効果的だと考えられる環境構成の提案及び実施することも、今後保育者の環境構成を考えていく上でとても貴重な経験になるだろう。

### 【主要引用・参考文献】

- 文部科学省(1998)『幼稚園教育要領』チャイルド社
- 文部科学省(1999)『幼稚園教育要領解説』フレーベル社
- 小林寛道(1990)『幼児の発達運動学』ミネルヴァ書房